

独立自営業者が経験したトラブル／ 整備・充実を求める保護施策

JILPT 副主任研究員 西村 純

JILPT 副主任研究員 前浦 穂高

はじめに

厚生労働省において平成29年度に開催された「雇用類似の働き方に関する検討会」で公表された報告書(注1)では、独立自営業という働き方に対するあるべき適切な保護施策について、今後も検討していかねばならないことが指摘されている。報告書が指摘する通り、この点についての検討は今後も継続して実施していく必要があるが、その際には、トラブルを経験した者はどの程度いるのか、また、解決しにくいトラブルは何なのか、さらにはそもそもいかなる保護を求めているのか、などについての実態把握が必要だと思われる。これらのことを確認することは、あるべき保護施策の検討において欠かせない作業だと思われる。

本稿ではこのような問題意識の下、労働政策研究・研修機構(以下JILPT)が平成29年度に実施した調査「独立自営業者の就業実態と意識に関する調査」より、①トラブル経験の有無、②解決状況、③独立自営

業者自身が求める保護施策の三つについて、報告書の刊行に先駆けて公表した記者発表の内容をベースで紹介する。また、本稿では上記三つにかかわるサンプル全体の紹介に加えて、サンプルの中からクラウドワーカーのみを取り出したデータも紹介する。なお、本稿で示しているデータは、特段の断りがない限り、平成29年度にJILPTが実施した「独立自営業者(注2)の就業実態と意識に関する調査」に依拠している。

1 サンプル全体の状況

(1) トラブル経験の有無

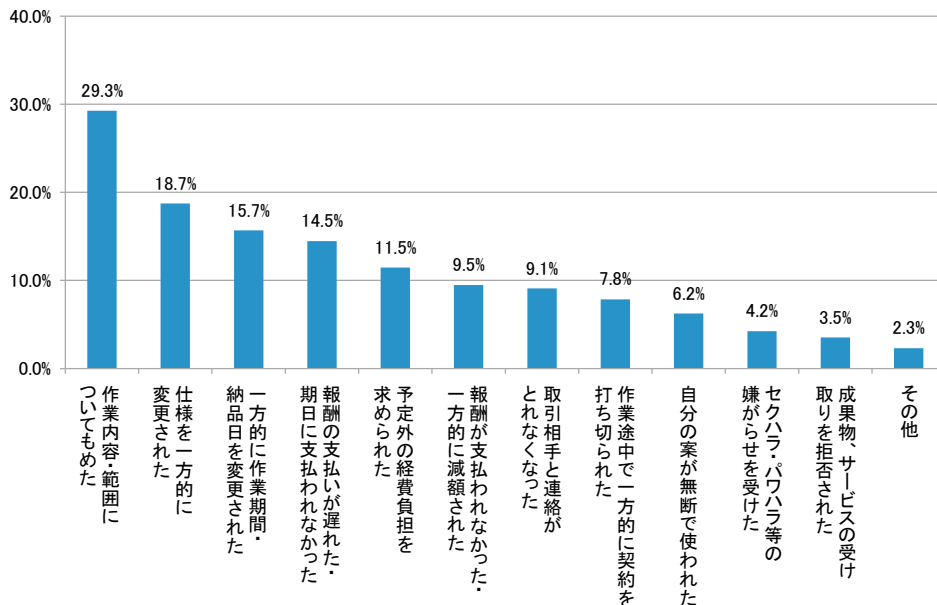
まず、2017年1月から12月にかけて、独立自営業者が経験したトラブルについて確認しよう。図表1には示していないが、トラブルを経験しなかった者が50.1%に上る。トラブルを経験した回答者に絞ってその内容について見てみると、上位四つには「作業内容・範囲についてもめた」、「仕様を一方的に変更された」、

「一方的に作業期間・納品日を変更された」、「報酬の支払いが遅れた・期日に支払われなかった」が挙げられている(図表1)。他のトラブルに比べると、作業内容、作業範囲、仕様など実施すべき作業に関する事柄についてのトラブルに遭うことが多いようである。

(2) トラブルの解決状況

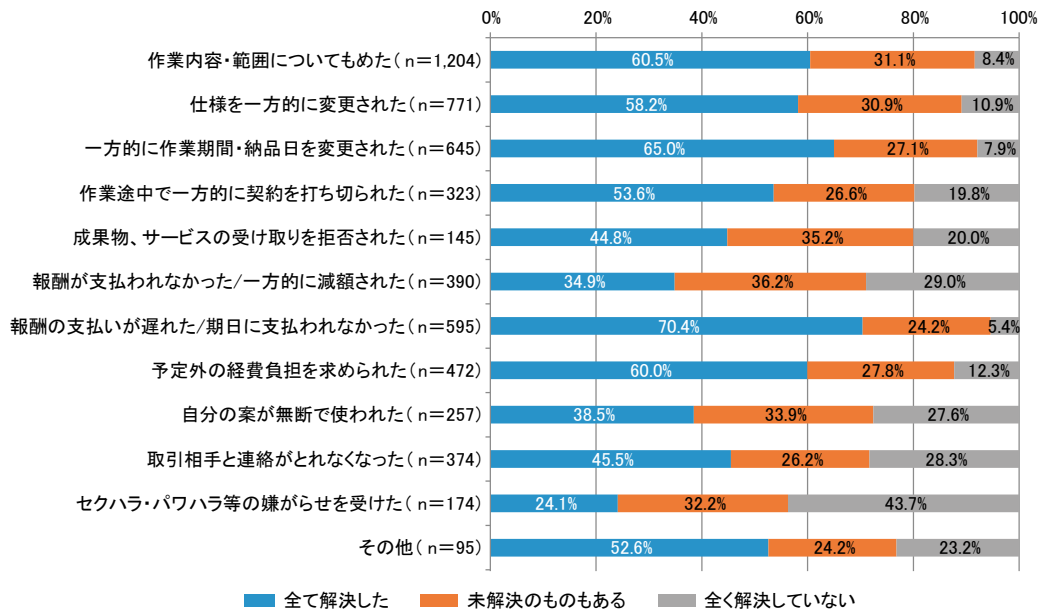
図表2よりトラブルを経験した者のうち、各トラブルのその後の解決状況を見てみると、「報酬の支払いが遅れた／期日に支払われなかった」、「一方的に作業期間・納品日を変更された」、

図表1 トラブル経験(MA)(n=4,116)



注1) 「トラブルを経験しなかった」を選択した4,139件と「無回答」1件は除外している。

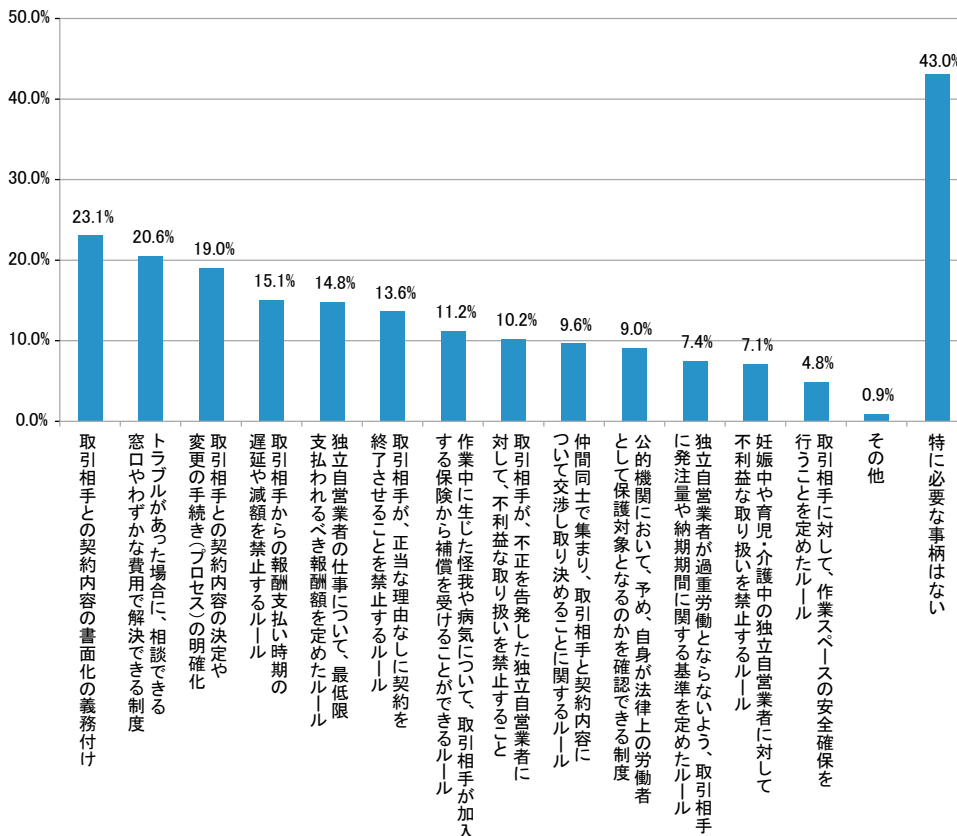
図表2 トラブルの解決状況



「作業内容・範囲についてもめた」は、トラブルの中では比較的解決に繋がりがやすいことが分かる。その一方で、「報酬が支払われなかった・一方的に減額された」は、トラブルの中では解決に至らない場合が多い。ト

ラブルに遭う頻度自体は少ないが、「セクハラ・パワハラ等の嫌がらせを受けた」も、解決に至らない場合が多い。

図表3 整備・充実を望む保護施策 (MA) (n=8,256)



(3) 整備・充実を望む保護施策

では、独立自営業者は、どのような保護施策の整備・充実を望んでいるのであろうか。図表3より、「取引相手との契約内容の書面化の義務付け」、「トラブルがあった場合に、相談できる窓口やわずかな費用で解決できる制度」、「取引相手との契約内容の決定や変更の手続き(プロセス)の明確化」といった、契約内容や方法に関することやトラブルがあった際の解決機関の整備に関することが挙げられていることが分かる。これらに続いて、「取引相手からの報酬支払い時期の遅延や減額を禁止するルール」や「独立自営業者の仕事について、最低限支払われるべき報酬額を

定めたルール」といった、報酬に関する事柄が挙げられている。ただし、「特に必要な事柄はない」が最も多い回答となっている。

2 クラウドワーカーの傾向

次に、サンプルからクラウドワーカーのみを取り出して、彼らや彼女らが経験したトラブルや整備・充実を望む保護施策について見てみよう。なお、ここでいうクラウドワーカーは、調査票SC8「仕事の取引相手(複数回答)」において、「クラウドソーシングの会社を通じて取引をしていた」のみを選択した1,068件である(注3)。

本調査におけるクラウドワーカーのプロフィールを示したものが図表4である。サンプル全体と比べると、①女性の比率が高い、②年齢の若い者が多い、③主たる生計の担い手ではない者が多い、④経験年数が短い者が多い、⑤兼業が多い、⑥事務関連の仕事に携わっている者が多い、といった特徴がある。婚姻状態や学歴については、大きな違いは見られなかった。学歴では大卒が最も多い。これらの点から、本調査におけるクラウドワーカーの特徴を示すと、比較的学歴が高く特定のパートナーがいる主たる家計の担い手ではない20代半ばから40代半ばの者達で、主に事務関連の仕事に兼業で行う者が多くいるようである。

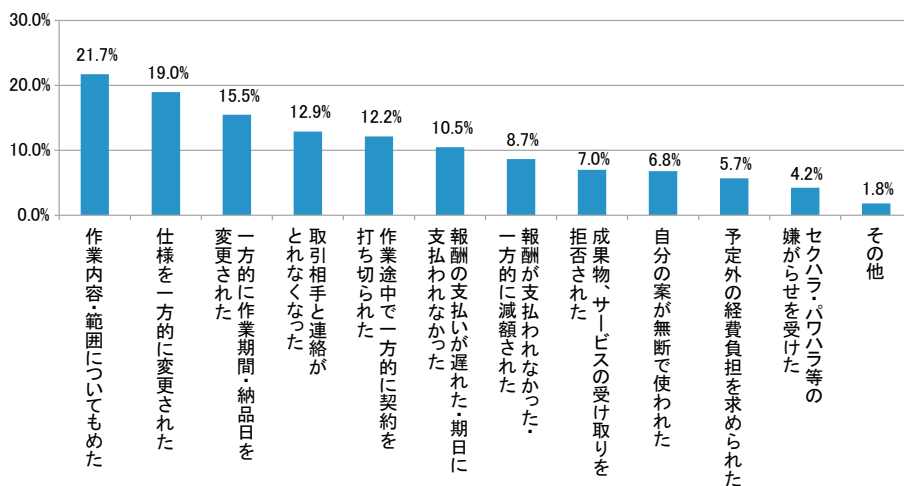
(1) トラブル経験の有無

さて、以上のような特徴がみられるクラウドワーカーの2017年1月から12月までに経験したトラブルについて見てみると、まず、図表5には示していないが、トラブルを経験しなかった者が49.2%に上っている。残りのトラブルを経験した回答者の中では「作業内容・範囲についてもめた」が最も多く、それに「仕様を一方的に変更された」、「一方的に作業期間・納品日」が続く。上位に挙げられている項目は、概ねサンプル全体

図表4 クラウドワーカーのプロフィール(列%)

		クラウドワーカー	全体
n		1,068	8,256
性別	男性	43.7%	62.9%
	女性	56.3%	37.1%
年齢	15歳～24歳	2.7%	1.1%
	25歳～34歳	31.8%	15.2%
	35歳～44歳	34.1%	26.0%
	45歳～54歳	21.0%	28.0%
	55歳～64歳	7.7%	18.0%
	65歳以上	2.7%	11.6%
婚姻状態	未婚・離死別	36.2%	39.1%
	既婚	63.8%	60.9%
学歴	中学・高校	20.0%	21.0%
	各種専門	13.8%	13.6%
	短大・高专	11.1%	10.5%
	大学	49.2%	47.6%
	大学院	5.2%	6.9%
	その他	0.1%	0.1%
主な生計	無回答	0.6%	0.3%
	自分	40.1%	54.8%
	双方	22.6%	23.7%
	自分以外	37.0%	20.7%
	その他	0.4%	0.9%
経験年数	1年未満	59.3%	21.3%
	1年～5年未満	30.6%	29.3%
	5年～10年未満	5.7%	17.1%
	10年～15年未満	2.2%	11.5%
	15年～20年未満	0.8%	6.6%
	20年以上	1.4%	14.2%
専業・兼業	専業	26.6%	49.5%
	兼業	73.4%	50.5%
主な仕事	事務関連	54.9%	18.9%
	デザイン・映像製作関連	6.0%	8.9%
	IT関連	6.8%	8.5%
	専門業務関連(医療、技術、講師、芸能、演奏など)	20.3%	39.6%
	生活関連サービス、理容・美容	3.1%	9.0%
	現場作業関連(運輸、製造、修理、清掃など)	8.9%	15.2%

図表5 トラブル経験(クラウドワーカー)(MA)(n=543)

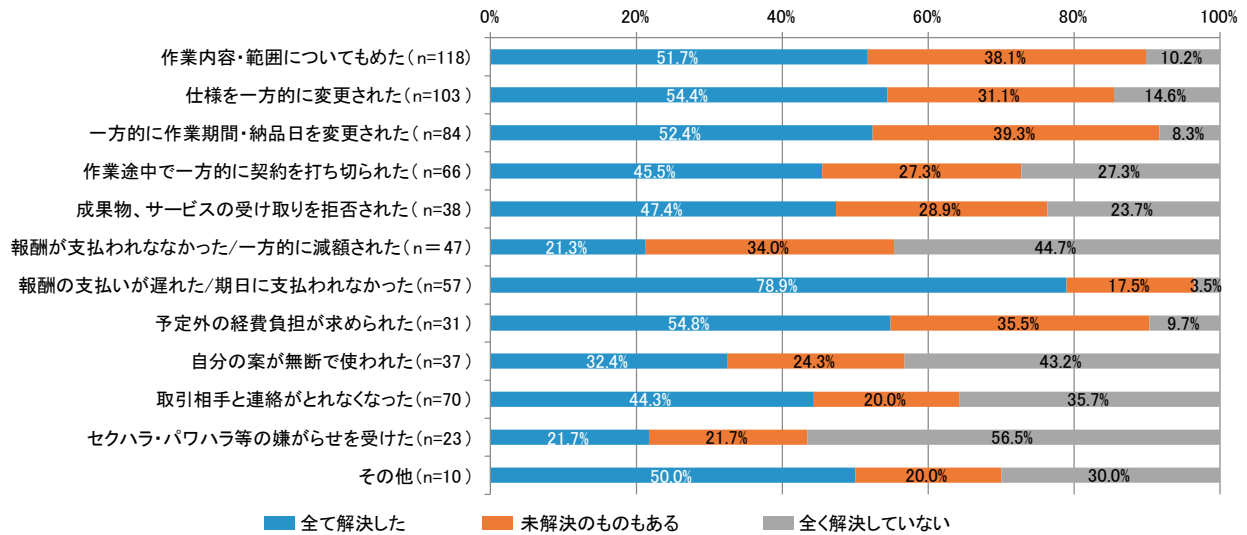


注1)「トラブルを経験しなかった」を選択した525件は除外している。

と同様の傾向が見られる。

強いて特徴を挙げるとすると、「予定外の経費負担を求められた」は、サンプル全体では11.5%(図表1)で上から5番目となっている一方で、クラウドワー

図表6 トラブルの解決状況 (クラウドワーカー)



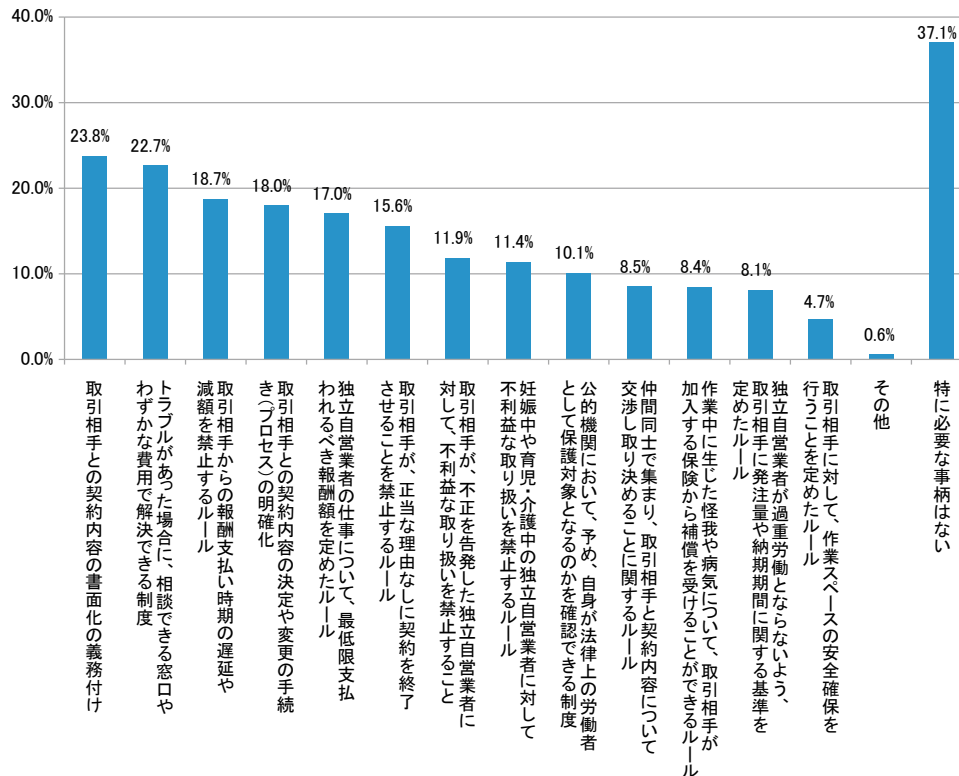
カーでは5.7%で上から数えると10番目となっている。独立自営業者全体と比べた際のクラウドワーカーの特徴と言えるかもしれない。

(2) トラブルの解決状況

経験した各トラブルのその後の解決状況を見てみると、概ね5割程度は解決に至っている(図表6)。全体の傾向(図表2)と比べてみると、トラブルの中で

は、「報酬の支払いが遅れた/期日に支払われなかった」は、「全て解決した」割合が8ポイント程度高く、比較的解決に繋がりと推測される。その一方で、「全く解決していない」トラブルの中では、「セクハラ・パワハラ等の嫌がらせを受けた」が12ポイント程度、「自分の案が無断で使われた」が15ポイント程度高くなっており、クラウドソーシングで働く人の特徴が窺える。

図表7 整備・充実を望む保護施策 (クラウドワーカー) (MA) (n=1,068)



(3) 整備・充実を望む保護施策

クラウドワーカーが整備・充実を望む保護施策のうち上位四つは、「取引相手との契約内容の書面化の義務付け」、「トラブルがあった場合に、相談できる窓口やわずかな費用で解決できる制度」、「取引相手からの報酬支払い時期の遅延や減額を禁止するルール」、「取引相手との契約内容の決定や変更の手続き(プロセス)の明確化」となっている(図表7)。ただし、「特に必要な事柄はない」が最も多い回答となっている。上位に挙げられている項目は、概ねサンプル全体と似た傾向になっている。



おわりに

以上、トラブル経験の有無、トラブルの解決状況、整備・充実を求める保護施策について、サンプルの独立自営業者全体の傾向とそこからクラウドワーカーのみを取り出した傾向のそれぞれを確認した。いずれの場合も概ね似たような傾向となっている。特徴を今一度示しておく以下通りである。

第一に、半数程度がトラブルを経験していない。第二に、経験したトラブルを見てみると、他のトラブルに比べると、作業内容、作業範囲、仕様など実施すべき作業に関する事柄についてのトラブルに遭うことが多いようである。第三に、経験したトラブルの解決状況を見てみると、概ね5割程度は解決している。第四に、特に必要ないという回答が最も多かったものの、整備・充実を望む保護施策としては、「取引相手との契約内容の書面化の義務付け」、「トラブルがあった場合に、相談できる窓口やわずかな費用で解決できる制度」、「取引相手との契約内容の決定や変更の手続き（プロセス）の明確化」といった、契約内容や方法に関することやトラブルがあった際の解決機関の整備に関することが挙げられている。

クラウドワーカー単独での特徴として垣間見られた事柄としては、トラブルの解決状況について、まず、「報酬の支払いが遅れた／期日に支払われなかった」は、サンプル全体と比べると比較的解決に繋がりがやすいことが窺われた。その一方で、「セクハラ・パワハラ等の嫌がらせを受けた」や「自分の案が無断で使われた」は、全く解決されていない割合がサンプル全体よりも高くなっており、解決しづらいトラブルであることが窺われた。

【注】

- 雇用類似の働き方に関する検討会「雇用類似の働き方に関する検討会 報告書」（厚生労働省、2018年）（<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11909500-Koyoukankyoukintoukyoku-Soumuka/0000201113.pdf>）。
- 本稿における「独立自営業者」とは次のような自営業者を指している。すなわち、「個人商店主、雇用主、農林業従事者を除く、自営業・フリーランス・個人事業主・クラウドワーカーの仕事で収入を得た者」である。この定義からわかるように、フリーランス、個人事業主、クラウドワーカーといった雇われのない働き方を選択し、かつ、自分も人を雇っていない者達の総称として、「独立自営業者」という言葉を用いている。この点については留意されたい。
- 調査票の質問の文言と回答の選択肢であるが、まず、質問の文言は以下の通り。「自営業・フリーランス・個人事業主・クラウドワーカーとしてのお仕事の取引相手は下記のどれに当てはまりますか（いくつでも）」。次に、選択肢は以下の通り。「1. 事業者（個人・法人を含む）と直接取引していた」、「2. 一般消費者と直接取引していた」、「3. 仲介会社を通じて取引していた」、「4. クラウドソーシングの会社を通じて取引していた」。

プロフィール

西村 純（にしむら・いたる）

JILPT 副主任研究員

専攻は労使関係論、人的資源管理論。日本やヨーロッパ諸国の団体交渉制度や人事制度の実態を明らかにすることを主なテーマとして、調査研究に従事している。最近の主な業績に、「企業内の労使交渉を重視した労使関係スウェーデンの賃金交渉を素材に」（『JILPT第3期プロジェクト研究シリーズ 現代先進諸国の労使関係システム』、2017年）、「Current Status of Talent Management in Japan :Based on Insights into Procurement and Development of Next-Generation Executive Human Resources at Japanese Manufacturers」（*Japan Labor Issues* Vol.2 Number5, 2018年）などがある。

プロフィール

前浦穂高（まえうら・ほだか）

JILPT 副主任研究員

専攻は、労使関係論、人事管理論。非正規雇用の組織化とその効果を主なテーマとして、調査研究に従事している。直近の主な研究成果に、「非正規雇用者の組織化と発言効果 一事例調査とアンケート調査による分析」（『日本労働研究雑誌』 No691、2018年）、「Allocation and Transfer in Japan」（*Japan Labor Issues*, Vol.2 Number 4, 2018）などがある。